

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	定宗 由里	生徒指導主事	佐々木 翼
取組事例名	『ハッピータイム（縦割り班活動）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
・異年齢集団での関わり合いを通して、高学年としての自覚、譲り合いや互いを思いやる協調性、ルール、規則を守ること等の社会性を、発達の段階に応じて身に付けさせる。 ・計画、運営、積極的な参加を通して、縦割り班への帰属感、安心感を味わわせるとともに、成功体験を起因とする自己肯定感を高める。	・異学年との関わりの中で、自分と違う立場、考え方に触れ、理解したり共感したりすることを通して、自分の役割や思いを明確にし、それらを適切に表現することができる。 ・困難な課題に直面した際でも、目標や希望を失わず、自己実現に向け、一生懸命努力を続けることができる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
① 開催日等の告知（6年生による事前準備） 人数、場所、やりたい遊び、必要な道具や準備にかかる時間等の考察 ② 実施当日 児童会執行部による放送で、各班の活動が始まる。	児童にめあてをもたせるために ・目的を明確にし、活動前に全員で確認する時間を設定する。（全校放送、各班の班長による声掛け） ・本イベントの意義を発達段階に応じて、学級指導によって、具体的に考えさせる。
 例1：クイズ、フルーツバスケット、自己紹介、折り紙等の室内遊び 例2：鬼ごっこ、ボール運動、だるまさんが転んだ、大縄跳び等の屋外遊び 第1回目は自己紹介を中心とする内容。 第2、3回目は、教室、体育館、グラウンド等での活動。 3月の6年生を送る会では、縦割り班を利用した昼食（弁当）の予定。 すてきな笑顔 	児童の意欲を高めるために ・目標と参加する班員の様子を照らし合わせ、修正や改善を繰り返すことを通して、活動内容をより良いものへと適宜変えていく。 ・活動内容を、班員の希望を交えて考えさせることで、活動への満足感を与える。
③ 実施後（次回に向けて） 各グループで活動を振り返り、次にしたい活動案の収集を行う。	児童の頑張りを認め、価値付けるために ・生徒指導通信等で活動の様子を掲載し、保護者に対しても、児童の成長を伝えることで、家庭からの肯定的な声掛けが期待でき、児童の自己肯定感の高まりにつながる。 ・振り返り時に、各班の担当教諭からもめあてに沿った声掛けを行う。



3 成果と課題

○ハッピータイム後に実施した「学校楽しいと（アンケート）」（2回実施）の結果、学級や学校に安心感を抱いている児童は、91.2%であった。本取組を通年で計画したことで、回を重ねるごとに、振り返りを生かし、より班員のニーズに応じた取組内容に改善を図ることができた。そのため、ハッピータイムを楽しみにしている児童も増え、計画、運営する高学年児童の意欲の高まりが態度でも見られるようになった。また、アンケートの1回目、2回目を比較すると、高学年児童の否定的な回答が減少する等、数値からも高学年の意欲向上が明らかになった。さらに、ハッピータイム以外にも委員会活動など、自分たちの学校生活をよりよくしていこうとする意識の芽生えも見られるようになった。

●「学校楽しいと（アンケート）」（2回実施）の自己肯定感に関する項目で、12学級中7学級で両回とも肯定的評価75%を下回った。また、アンケート1回目～2回目にかけて30%以上の向上が見られる学級もあったが、1回目に目標値をクリアしていた学級が、アンケート2回目では、目標を下回る等、継続的な支援及び個別支援に課題が残る。今後は、肯定的評価を行う場面を具体的に設定するなど、児童の自己肯定感の向上を図る。